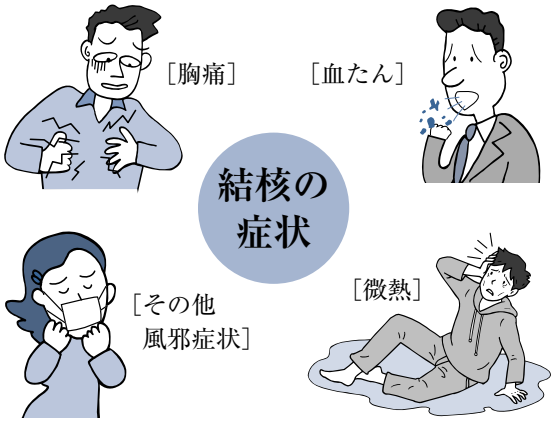
治ります

昔は、結核の治療というと「安静・栄養・大気」が第一と考えられていましたが、現在では6カ月から9カ月の規則的な服薬や治療によって治癒できるようになりました。しかし、不規則な服薬や治療をすると、菌がその薬に対して「耐性」をもつことになり、薬が効かない菌（耐性菌）ができてしまいます。

服薬や治療によって、せきなどの症状が1カ月くらいで軽快しても、毎日忘れずに規則正しく服薬し、定期的な治療を受けることが大切です。



結核を防ぐ

結核は、抵抗力が弱まったときに発病します。結核菌に弱みをみせないためにも、過労・睡眠不足・栄養不足にならないようにしましょう。

〈家庭でできる予防法〉

- 睡眠時間を十分にとる
- 好き嫌いをせず、バランスのとれた食事をする
- 適度にスポーツをする

〈早期発見・早期治療〉

- 長引くせきや微熱など「変だな」と思ったら、早く医療機関へ
- 1年に1回は定期健康診断を受診する

結核対策のポイント

①高齢者の発病が増加

結核は、1950年代まで毎年50万人近い方が発病し、誰もが感染しやすい状況だったため、この時代に青春期を送った世代の方のほとんどが、結核の感染を受けていると思われます。そして、今まで眠っていた結核菌が、体力・免疫力の低下に伴い、動き出し、発病しているケースが多くなっています。特に、糖尿病や人工透析・大きな手術などで体力が弱り、発病する傾向が見受けられます。

平成12年に全国で結核が原因で死亡した人の72％が、70歳以上の高齢者の方でした。

なんとなく体調が悪いと思う高齢者の方は、早めに医療機関で受診するよう心がけましょう。

②赤ちゃんを守る予防接種

子どもの結核は、大人に比べると髄膜炎（ずいまくえん）や粟粒結核（ぞくりゅう）など重症になることが多く、生命にかかわることがあります。重症化する乳幼児の結核を防ぐためには、BCG接種が大切です。

市では、結核予防法に基づき、生後3ヵ月から満4歳未満の乳幼児を対象にツベルクリン反応検査を実施し、陰性（結核に感染していない）の場合に、BCG接種をしています。生後3ヵ月以降の早い時期に（できるだけ1歳になる前）にツベルクリン反応検査を受けましょう。

なお、平成15年度から結核予防法が変わり、小中学校でのツベルクリン反応検査および陰性者のBCG接種はなくなりました。

4歳未満の乳幼児期には必ず、ツベルクリン反応検査を受けましょう。

③集団感染にご注意

結核に感染する機会が減ってきた現状では、20歳代から50歳代の大部分の人が結核に感染していません。そのため、結核菌を吸い込めば感染する可能性が高く、また、この年代の方々は集団活動する機会が多いため、集団感染を起こす危険性があります。

自分のためにも、周りの人のためにも、必ず年に1回は健診および胸部レントゲン検査を受けましょう。

相談は保健所へ

結核予防法により、医師が結核と診断すると、保健所に届け出をするように定められています。また、保健所では、担当の保健師が結核患者さんとその家族の方の相談を受ける体制が整っています。

この他、結核に関するあらゆるご質問を受け付けていますので、相談窓口としてお気軽にご利用ください。

問合先

豊川保健所蒲郡支所
地域保健課 ☎69◆3156